

請 願 文 書 表

受理番号	7-1	受理年月日	7.2.14	付託委員会	総務常任委員会
請願者の 住所及び 氏名	岡田 計男 嶋路 裕子 滝澤 松代			紹介議員	西 良倫
件 名	井戸の掘り替えを求める請願				
要 旨	城陽市の水道の目標の柱に安全安心な地下水の利用が掲げられていることから、井戸の取水能力の低下を防止するためにも、井戸の掘り替え計画を立て、安心安全な地下水の確保に努めて下さい。				

1、請願の趣旨

城陽市の水道の目標の柱に安全安心な地下水の利用が掲げられている事から、井戸の取水能力の低下を防止するためにも、井戸の掘り替え計画を立て、安全安心な地下水の確保に努めて下さい。

2、請願の理由

城陽市は水道事業の方針として地下水を引き続き重用するものと理解しています。

これらは三つの目標を設定した城陽市水道ビジョンにも明記されています。うち一つには「安全-いつまでも安心して飲める、安全で信頼される水道」とあります。この項の中に「城陽市の水道水は、その大部分が、地下深くから汲み上げる地下水を浄水処理した水です。この地下水は、周辺環境から大きな影響を受けることが少ないため、水質が安定しています。その水質は、水道水の水質基準をほとんど満足するほどで、とても良質です」との記述があります。地下水を利用している、という事は城陽市の水道の目標の柱になっている、とりわけ安全安心の要であるという認識であると承知します。

しかし、市は井戸は劣化して揚水量が減るのでそれを補うために府営水を増やすと説明しています。井戸が劣化し、揚水量が減っているというのなら、安全安心な地下水を確保するために、井戸の更新掘り替えをするのが筋ではないでしょうか。

先の議会では「今後の水需要、費用対効果等を考慮して判断する。新たな投資は市民負担に直結する、広域化の議論を見極める必要があることから、自己水の拡充の判断を下せる状況にはない」と答弁しています。

また、水需要が減るのなら、府営水を増やす必要はありません。調整弁として府営水を使うにしても、結果として府営水への依存が増えるのなら本末転倒と考えます。

井戸の更新掘り替えで投資というイニシャルコストがかかるがランニングコストは格段に安くなる地下水と、莫大なランニングコストがかかり続ける府営水との費用対効果を比べれば、結果は火を見るより明らかだと思います。

広域化しても城陽市が主体的に広域的にも活用可能な京都水盆の地下水の有用性について主張できます。

城陽市水道ビジョンの目標の一つ「持続-いつでも皆様の近くにありつづける水道」の中にある井戸の掘り替えは、中間見直以降もまだ重点施策となっています。

目標の一つで地下水を安心して安全とし、別の目標の中で井戸の掘り替えを重点的にすると城陽市は自らまとめています。

市はこの立派な水道事業経営方針である城陽市水道ビジョンに基づき、井戸の掘り替えをする具体的な計画をすすめていただきますよう、よろしくお願ひ致します。